

パーパスのその後 第3弾 現場で体現する 「専門性」と「創像力」

パーパス策定メンバーの西山さんに、そのプロセスで感じた「想い」と、現場統括マネージャーとしての実践論をインタビュー。「プロとしてアンテナを張る」という具体的な行動指針と、社会貢献への視座について語っていただきました。

いずみパーキング 名古屋新栄オフィス
現場統括マネージャー

にしま ゆうま

西山 雄真さん

小澤製作所の
パーパス

「専門性と創像力で社会に未来をつなぐ」

パーパスとは

企業の「存在意義」や「社会的な存在価値」を意味します。もともとは「目的」「目標」といった意味の英単語ですが、現代のビジネスでは、企業が何のために存在し、事業を行うのかという本質的な問いに答える「社会における志」を指します。

パーパス策定時に込めた思い

社長の熱い想いを、現場の「志」として届けたい

長い議論を経て完成したパーパスは、社長や顧問を含めた会社全員の想いの結晶です。特に心を動かされたのは、社長が語る「社会」「未来」への熱量でした。会社をより良くし、社会に貢献したいという強い意志に触れ、私が現場に届けるべきはこの「想い」だと確信しました。私たちの仕事は社会の未来につながっているという志を、現場のメンバーや後輩たちにしっかりと伝えていきたいと思っています。



日常業務における「専門性」と「創像力」の具体的な実践方法

①「専門性」

プロとして最新情報を掴み、提供する

単に駐車場を管理するだけでなく、プロとして確かな知識と最新の情報をお客様に提供します。そのため駐車場領域にとどまらず、不動産全体の動向に常にアンテナを張り、自ら情報を取りに行く姿勢を貫きます。

②「創像力」

経験を「肉付け」し、最適解を導き出す

得た情報を右から左へ流すのではなく、自分たちの経験や知識を「肉付け」して提供します。単なるデータに経験則や専門的視点を加えることで、お客様にとってのベストな解法をイメージし、提案として具体化します。

パーパス策定後の自身の変化

以前は「自分たちがわかれば良い」という狭い範囲で完結してしまいましたが、現在は「誰にでもわかるように伝える」ことや、地域貢献、社会貢献を強く意識し、視野が広がったと感じています。



今後目指してほしい方向性

自ら「アンテナ」を張り、幅広い知識で顧客の真のパートナーへ

部下や後輩には常々「プロとしてアンテナを張ってほしい」と伝えています。不動産業界では情報が全てです。駐車場のことだけでなく、仲介会社様やオーナー様の視点を理解し、法人の移転や所有者変更など、自ら動かなければ得られない情報をキャッチすること。そうした幅広い知識をもって提案できて初めて、お客様と対等なパートナーになれます。そのプロ意識こそが、お客様への貢献、そして社会の未来へとつながっていくはずです。



メッセージ

パーパスは仕事の「ヒント」。 自分なりの答えが会社の未来をつくる

パーパスは私たちが目指すべき「志」であり、仕事の「ヒント」でもあります。「何のために働いているのだろう」と迷いや悩みが生じたときは、一度立ち止まってパーパスを見つめ直してみてください。そこには、私たちがどう社会に貢献できるかが書かれています。そのヒントをもとにプロ意識をもって考え、行動する。その積み重ねが、会社の成長と未来をつくっていくと信じています。

システム アップデートの舞台裏

「ミスをし組みで防ぐ」現場の取り組み

業務をより良くするためのシステムアップデートが着実に進んでいます。今回はその一例として、小栗さんが取り組んだ改善事例を紹介いたします。前任者のベースを引継ぎ、「使いやすい道具」へと改良した今回のアップデート。その背景にある工夫と想いを伺いました。

おくり のりて
営業部 小栗 紀子さん

改善したシステム 見積書作成業務

「正確な書類をお届けし、信頼を守ること」を何より大切に考え、従来のエクセルでの手作業から、システム内での自動計算・出力へと移行しました。ヒューマンエラーの解消と手入力の削減を軸に、会社の信用に関わるミスを未然に防ぐ仕組みを整備し、効率化によって残業削減や休日取得しやすい環境づくりにもつなげたいという想いがありました。

	以前 (エクセル手作業時)	アップデート後
計算精度	手入力による誤記リスク	システムによる自動算出
表記の統一	担当者ごとに単位が混在	マスタ登録により自動統一
作業時間	1件あたり30分	1件あたり5分
心理的負担	念入りの再チェックが必須	正確な計算結果により安心

工夫した点

誰でも迷わず操作できる 仕組みづくり

▶直感的なタブ操作

画面上のタブを順番に選んでいけば、必要な項目が網羅され、最終的に1枚の見積書が完成するように仕様を整理し、システム担当者と連携して設計に反映しました。

▶複雑な計算の自動化

「材料費」などの項目ごとに、複雑な計算はシステム上で自動処理されるようにし、入力者が計算を意識しなくても済む環境を整備しました。

▶単位の自動表示

部品によって異なる「個」や「本」などあらかじめ登録した単位を、自動表示されることで社内での単位が統一され、記載ミス等も防ぐようにしました。

▶現場目線の道具作り

特別なレクチャーがなくても、新人からベテランまで直感的に使える道具にすることを重視しました。

メッセージ 現場の気づきでさらに育ててほしい

このシステムが形になるまで、検証期間から実現するまで2年以上の歳月を要しました。現在は担当を後任に引き継いでいますが、この仕組みにはまだ改善の余地があり、「完成形」ではないと考えています。実際に使う中で出てくる改善点を、どのようにすれば

使いやすくなるのかを考え続けることが重要です。思い付きですぐに変更するのではなく、社内で協議や検討を重ねることが、より本質的な改善に繋がると信じています。現場の皆さんの気づきによって、この仕組みをさらに良いものへと育てていくことを願っています。

ようこそ小澤製作所へ!

新入社員紹介

大阪オフィスの本格稼働に向け、新たなメンバーが加わりました。

お客様との長期的な関係構築を大切にしながら、拠点の拡大を目指す赤川さんの思いに迫ります。



いずみパーキング
大阪オフィス
あかがわ たかふみ
赤川 貴史さん

前職と入社の際

前職は光回線の代理店で営業をしていました。その後、将来を見据えたワークライフバランスの改善や、給与面の向上を求めて転職を決意。決め手となったのは、お客様と長期的に関係を築いていける営業スタイル。さらに大阪オフィスの立ち上げという、大きな役割を任せてもらえる環境も当社を選んだ理由の一つです。

今後の意気込み

現在、大阪オフィスのメンバーは私1人です。マンションの修繕業者に対して営業を行い、修繕時に必要となる代替駐車場の依頼を増やすことが主なミッション。大阪拠点をさらに拡大できるよう、しっかりと結果を出していく所存です。皆さんも何か機会があれば、ぜひ遊びにいらしてください。

お客様と深く関わる営業と、
裁量ある環境を求めて

出身地 ▶ 鳥取県大山町

大学進学で京都へ行き、その後は大阪で働いていますが、生まれは鳥取県の大山町です。海も山もあり、とにかく自然が豊か。関西に比べ、海鮮などの食べ物が圧倒的に美味しいところが一番の魅力です。

マイブーム ▶ 体づくり

健康管理のため、毎日体重計に乗るのが日課です。朝食の自炊や食事内容の見直しなど、食事メインの調整により、半年で5kg程度の減量に成功。最近では自炊ができず少しリバウンドしてしまったため、毎日の体重の変化を見ながら食事を調整しています。

リフレッシュ方法 ▶ 週1回の運動

最低でも週に1回程度は体を動かすよう心がけています。学生時代はバスケットボール部に所属しており、社会人になってからは月1回のフットサルが習慣に。ほかにも、ランニングやジムでの筋トレなども組み合わせながら、健康管理とリフレッシュを兼ねて体を動かしています。

少しか自慢できること ▶ 以前の会社の人たちのつながり

以前の職場の方々とは今でもたまに連絡を取り合うなど、良好な関係が続いています。私が人と接するとき意識しているのは、常にオープンでいること、人の悪口を言わないこと。それがいい影響を及ぼしているのか、周囲の素晴らしいご縁に恵まれていると実感しています。

